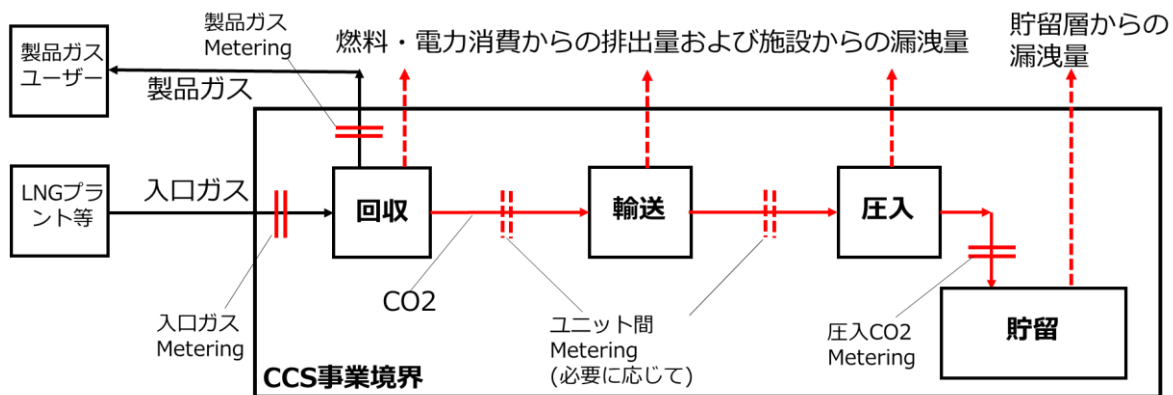


# 概要（2つのガイドラインの特徴と関係）

## CCS事業実施のための推奨作業指針 (CCSガイドライン)

- 「CO2地中貯留事業における技術対応事項と、CO2/GHG排出削減量の定量化と検証方法」に特化。
- 地下の貯留資源量(貯留層へのCO2貯留可能量)を国際的に比較可能な指標で分類するSRMS(\*)を例として提示。
- CO2地中貯留事業の計画策定からCO2貯留可能量の算出、CO2/GHG削減量評価を一つのガイドラインで分かりやすく提示。

(\*) Society of Petroleum Engineers によるCO2 Storage Resources Management System。

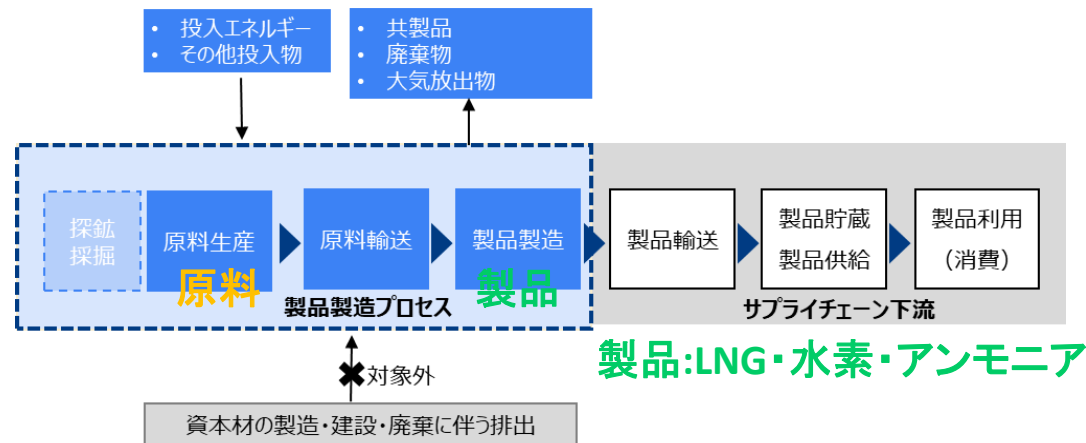


$$\text{【CO2/GHG排出削減量】} = \text{【CO2回収量】} - \text{【燃料・電力消費からの排出量】} - \text{【漏洩量】}$$

## LNG・水素・アンモニアの温室効果ガス排出量 及びCarbon Intensity算定のための推奨作業指針 (GHG・CIガイドライン)

- 「LNG・水素・アンモニア」を一つのガイドラインでカバーし、各エネルギー資源(製品)のGHG排出量及びCIの算出の考え方を提示。
- 国際的に議論が加速するメタン漏洩への対応を示し、排出源別に最適とされる手法(\*)を推奨。
- 提案する算定手法について、今後実際のプラント実証及び技術検証を通して、確認していく。

(\*)各排出源での推奨手法と代替手法の提案(例:主要排出源では測定で得られる値で算出することを推奨する)。



$$\text{製品の炭素強度 (CI: Carbon Intensity)} = \frac{\text{製品のGHG排出量} - \text{排出控除量}}{\text{製品のエネルギー含有量または重量}}$$